



生きものの宝庫

ため池

池干しで再生するため池の自然

問合せ先
福岡県環境部自然環境課
〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号
TEL : 092-643-3367
E-MAIL : shizen@pref.fukuoka.lg.jp

福岡県 自然環境課

検索

※このパンフレットをホームページからダウンロードすることができます。また、ご意見・ご感想をお寄せください。

監修・作成・発行：福岡県環境部自然環境課
福岡県特定外来生物対策検討会議
発行日：平成21年3月
デザイン：ADBOX

豊かな自然・生きものの宝庫 「ため池」

ため池とは主に農業用水を確保するために水を蓄え、取水設備を備えた人工池のことをいいます。一口にため池といっても様々なタイプのものがあり、農村の山あいでも静かにたたずむため池があれば、市街地に暮らす人々の憩いの場となっているため池もあり、その形態は様々です。

見直されるため池の価値

今、ため池の豊かな自然が注目されています。ため池の自然環境は、開発などで大きく減少した湿地の環境に似ており、湿地を追われた生きものたちにとって、最後に残されたオアシスのような存在です。絶滅危惧種といわれる生きものたちの多くがため池を生息域にしています。豊かな自然を残しながらも、私達の身近にあるため池を、自然とのふれあいの場として、また、憩いの場として、積極的に保全・利用している地域が年々増えています。

多くの生きものを育むため池

農業利用による定期的な減水・干し出しによって、ため池には独特の自然環境が形成されてきました。①池の水位が変動することで湿地に似た水辺環境が作りだされる。②水深が浅く池全面に水草群落が形成されやすい。③水の入れ替えて水質が維持される、などの要因で、そこに多様な水生昆虫が生息し、それを捕食する魚類や鳥類など多くの生きものが呼び寄せられてきます。また、雑木林・田んぼ・水路・草原などを結ぶため池は、それらを移動する、または根付く動植物にとって大切な生息地となっています。



ため池の生きものたちの危機

ため池の豊かな自然が失われていく・・・

貯水量の少ないため池では、水生植物が繁殖しやすい反面、プランクトンが増殖して水質が汚濁（富栄養化）しやすくなります。農業用水として水抜きすることは、水質の維持に役立っていました。

しかし今では、農業用水路の発達や農地の減少で、ため池が利用されなくなり、富栄養化が進行しています。アオコが発生し太陽の光が池の中に届かなくなったり、



富栄養化によりアオコが発生したため池

池底にヘドロが溜まったりしたため池では、多くの生きものが生きていけません。

さらに生きものにとって受難なのが外来生物の存在です。特にブラックバスやブルーギルがため池などの小さな水域に侵入すると、短期間で生態系が壊滅的な影響を受けてしまうことが報告されています。

侵略的外来生物ブラックバス・ブルーギル

ブラックバス・ブルーギルは生態系へ悪影響を与える侵略的外来生物として、法律で「特定外来生物」に指定されています※。全国各地で外来生物から生態系を守るため、地域住民やNPOによる防除活動が行われています。
※これらの魚を他の水域に放流することや飼育することは懲役もしくは罰金刑が科されます。

オオクチバス（ブラックバス）



一般にブラックバスと呼ばれてます。北米から持ち込まれた何でも食べる雑食性の魚で、たいへんな大食いです。

名前のとおり大きな口をあけて、自分の体の半分くらい大きさの魚をのみこむこともできています。

卵がかえるまで、オスが外敵から卵を守る習性があるので、たくさんの子孫を残すことができます。

ブルーギル



ブラックバスと同じく北米から持ち込まれた魚で、オスが卵を守るため、たくさんの子孫を残すことができます。

オオクチバスが魚を食べるのに対して、ブルーギルはおもに魚の卵をたくさん食べることで知られています。

卵を根こそぎ食べてしまうので、そこにすんでいる生物たちにとってはブラックバス以上に恐ろしい魚といえます。

ため池の生態系が危ない

生きものは長い年月をかけてさまざまなに進化し、生きていく場所に応じて、他のいろいろな生物と複雑な関係を築いてきました。その関係の中には、もちろん食べたり、食べられたりという関係もあります。

食べる側は、うまく獲物がつかまえるように工夫するし、食べられる側は何とか食べられないですむように工夫します。そういう工夫や経験は幾世代にもわたって重ねられ、遺伝的に受け継がれていきます。そうして、その場所、その地域ごとに折合いのついたバランスが保たれています。



そこに突然、その場所にいたことがない、どう猛な生き物が入ってきたらどうなるのでしょうか？食べられる側は、そういう敵から身を守る術をもっていません。食べられる魚たちは、突然あらわれたブラックバス・ブルーギルのような未知の外来魚から身を守る遺伝的な性質をもっていないのです。特に、ため池のような狭い場所では、在来魚たちは、陸を歩いて逃げる術もなく、一方的に食べられてしまい、その池から姿を消してしまう可能性もあるのです。

ため池の生態系を守る

復活する「池干し」

以前は多くのため池で行われていた池干し。3年～5年毎に完全排水し、水草を除草したり堆積した泥をかき出し堆肥として再利用したりして、ため池を大切に維持管理していました。また、池の魚を捕ることは楽しみのひとつであり、これをとって「じゃこ(雑魚)とり」ともいわれていました。

集落の人々が協力しあって行う池干しは、収穫感謝の

祭事として、また、集落のコミュニケーションの場としても大切な意味合いをもつ行事でした。

高度成長期以降、農村環境の変化から慣習としての池干しはほとんど行われなくなりました。しかし、人々の自然環境への関心の高まりなどから、ため池の生態系保全や環境美化のために池干しを実施する地域が次第に増えています。



写真提供:水土星ネット 加古川西部(加古川西部土地改良区)

「池干し」でよみがえるため池

もともとため池は、「池干し」などの人為的管理で、水質や植生が保全され豊かな生態系が育んできた歴史があります。

また、外来魚対策についても、「池干し」は投網や刺し網など漁具を使った捕獲と違って特別な技術を必要とせず、資金・人材面でも効率的で、かつ確実性が高い防除が可能になります。

「池干し」を復活させることで、効果的に健全なため池に戻すことができます。

また、「池干し」には、大人も子どもも関係なく泥んこになって夢中で魚を追いかける「楽しさ」があります。地域がー丸となって自然とふれあえる「池干し」には、これからの地域と自然とのあり方を考えるヒントがあるかもしれません。

生態系の保全

自然とのふれあいの場づくり

池干しの意義

水質・池底・景観などの環境改善

地域住民の交流

《池干し前》



アオコが水面を覆うため池



《池干し直後》



透明度が増すことで多様な生きものが
生息できるため池になっていく

県内の池干し事例

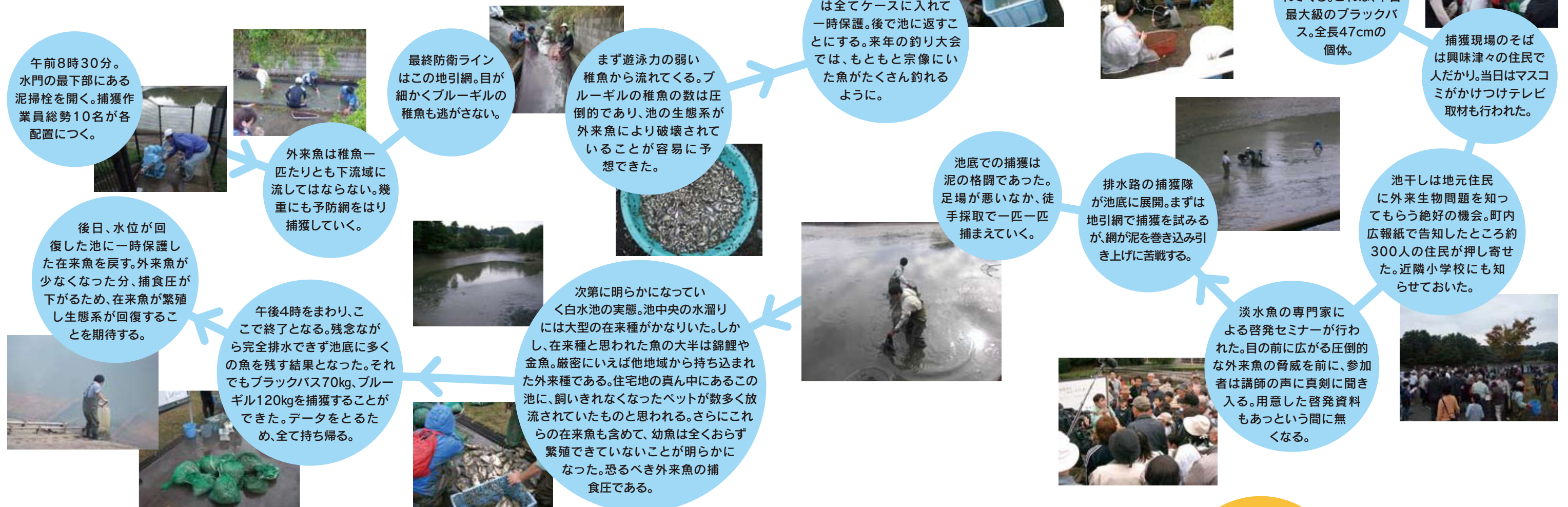
CASE.1 外来魚の圧倒的な数に参加した住民300人が息を呑む (宗像市 白水池)

市民の憩いの場として利用されている白水池では毎年釣り大会が行われていたが、主要対象魚種はブラックバス、ブルーギルとなっており、本来の宗像市の在来生態系からはかけ離れた状況にあった。

市民の憩いの場として、自然・生き物と人との触れ合

い場として、必要なのは本来あるべき生態系を持つ自然豊かな環境である。

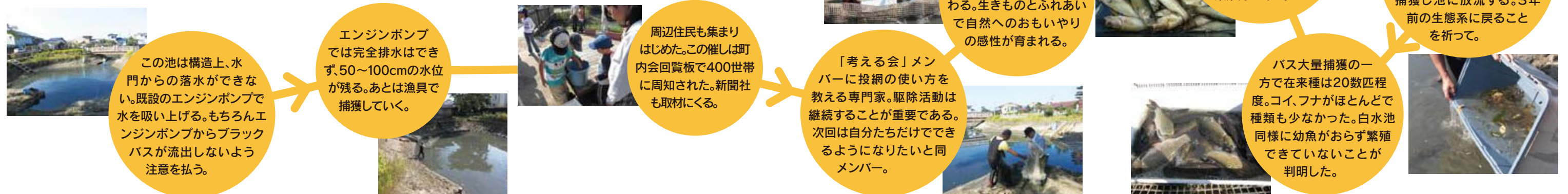
市民の憩いの場として活用すべき本来の生態系をこの池で取り戻すことを目的に、宗像市と福岡県の共同事業として池干しを実施した。



CASE.2 ため池にトンボや水鳥を戻したい 地元住民組織の発意による主体的な取り組み (福岡市西区 ひょうたん池)

ひょうたん池は、自然共生を目指した公園型ため池として再整備され、地域住民の憩いの場として親しまれている。福岡県の「快適な環境スポット30選」にも選ばれた。

公園の美化活動を行う住民ボランティア組織「ひょうたん池を考える会」によると、数年前にブラックバスが侵入し、その頃からオイカワなど小型の魚が姿を消し、トンボや水鳥もみられなくなったという。同組織は、専門家の協力を得て池干しを決行した。



池干しを成功させるポイント

地域に喜ばれるイベントとして

ため池は個人が所有・管理している場合が多く、池干しを実施するためには、所有者・管理者、水利権者等の理解と協力が必要になります。

関係者の合意を得るため、池干しの意義を理解してもらうことはもちろんですが、さらに池干しの付加価値を高める取り組みを入れると、より円滑な合意形成が図れるでしょう。

次世代の育成

近所のため池も、水の中にどんな生き物が棲んでいるのか、それを見る機会はなかなか少ないものです。生きものへの関心と好奇心が強い子どもたちにとっては、魅力あるイベントとなるでしょう。生きものとふれあう機会が少なくなった子どもたちに、地域が一体となってこのような機会をつくることは大切なことです。生きもの観察会や、生態系や外来魚問題を考える環境教育の場にもなります。近隣の学校と連携して授業の一環として実施している地域もあるようです。



生きものとのふれあい



自然環境セミナー

環境美化

池干しにあわせて、池の中に投棄されたゴミの回収や周囲の草刈りなど美化活動を行います。地域住民で取り組むことで、ため池がきれいになるだけでなく、地域の共有財産として地域でため池を大切に守っていくという機運づくりを図れます。



池底清掃

捕獲した外来魚の利用

生態系を守る意義があっても、生きものの生命を奪うことに疑問を抱く人々もいます。捕獲した外来魚の試食会を開催したり、肥料に活用するなど**生命を大切に利用する**方策を検討しましょう。



ブラックバスバーガー試食会

何よりも池干しには参加者を満足させる「楽しさ」があります。地域イベントとして根付かせていくには、社会貢献意識や使命感だけでなく「楽しさ」も重視する運営が求められます。

地域のイベントとして根付かせていくには、参加の動機付けにも十分に考慮し、「楽しさ」を随所にちりばめアピールしていくことも必要でしょう。

大切なこと・守りたいこと

《安全対策》

池干しが「楽しく」あるためには、安全対策に最も重きを置かなければならないことは、いうまでもありません。

関係者の理解を得るためにも、十分な安全対策を検討しておくことが必要です。

《拡散防止》

池干しによって、他の水域に外来魚が拡散するようなことは絶対に避けなければなりません。外来魚は稚魚一匹たりとも流出しないように、逸出防止対策を厳重に行う必要があります。

外来生物
被害
予防3原則

- ① 入れない
- ② 捨てない
- ③ 拡げない

📞 ココ!

外来魚防除マニュアル

福岡県では、外来魚による生態系被害を防除する活動を支援するため、「外来魚防除マニュアル」を作成しております。ため池の「池干し」など効果的な防除手法について、実施する手順や注意すべきポイントなどを解説しています。

インターネットで閲覧、またはダウンロードできますのでご活用ください。

福岡県 自然環境課

検索

